

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2025 年 11 月

第 139 号

主な予定

11 月 22 日 (土)

14:00～

柏歴史クラブ「柏の葉戦争
遺跡ガイドツアー」

11 月 29 日 (土)

TX トリップウォーク

12 月 28 日 (日)

10:00～

こんぶくろ水の行方ウォー
キング

クモの観察会に参加して

千葉大学教育学部 2 年 西崎 友

10 月 5 日、日曜日、ほんのりと残暑が感じられる中、私はこんぶくろ池自然博物公園で行われた「クモの観察会」に参加しました。講師には、千葉県生態系研究所所長であり、NPO 法人自然観察大学学長の浅間茂先生をお迎えし、子どもを含む 25 名の参加者と一緒にクモの調査と観察を行いました。

私は千葉大学の講義の一環で、7 月ごろから NPO 法人こんぶくろ池自然の森の活動に参加しています。普段は月 3 回の環境保全活動に参加していますが、観察会のようなイベントへの参加は、夏の「夜の昆虫観察会」に続き今回が 2 回目でした。大学で教育を専攻している私にとって、今回の観察会は子どもたちが自然の中でどのように学び、自然とどう関わっていくのかを実際に見ることができる貴重な機会でもありました。

観察会では、普段の生活では見られない多くのクモに出会いました。こんぶくろ池自然博物公園は、工業地帯のすぐそばにありながら、地域の方々の保全活動によって湿地や湧水、森、希少動植物など多様な自然環境が守られています。そのため、周辺では見られないクモも多く生息しており、生きものたちの共生の場になっていることを実感しました。

約 2 時間の調査の結果、確認されたクモは 35 種にのぼり、環境評価は「水辺などの湿地があり、環境に多様性がみられる。多様性のある公園」である B 評価と認定されました。結果を聞いたとき、普段の保全活動が着実に自然の多様性を支えていることを改めて感じることができました。一方で、昨年よりも種数がやや少ないとのこと、夏の暑さや気候変動の影響が考えられるという話もありました。これだけ木々に囲まれ、湧水が流れる環境でも影響を受けていると知り、地球温暖化が身近な自然にも確実に影を落としているのだと感じました。浅間先生によると、冬にはまた異なる種類のクモが見られるそうで、今後は季節ごとの変化にも注目してみたいと思いました。

クモの観察会には小学生も子どもたちも多く参加しており、教育を専攻している私にとって、子どもと自然・環境との関わり方を学ぶ貴重な機会となりました。観察会では、講師の浅間先生がクモの生態についてわかりやすく説明してくださり、さらに NPO 法人こんぶくろ池自然の森の方々がこんぶくろ池自然博物公園がどのような場所であるのか、その自然環境の特徴についても丁寧にお話しくださいました。





参加した子どもたちの興味の持ち方は実にさまざまで、クモに詳しい子もいれば、虫全般が好きな子もいました。また、「ほかの観察会では抽選に外れてしまったけれど、今回は当たって本当にうれしい」と話す子もいて、一人ひとりが楽しみにこの活動に参加していたことが伝わってきました。どの子も熱心に浅間先生の話聞き、クモの捕獲や観察に夢中になっている姿が印象的でした。こんぶくろ池自然博物公園には多種多様な生きものが生息しているため、子どもたちは新しい種に出会うたびに驚きや発見を重ね、その中で自然への理解と関心を深めているように感じました。また、全員が新しい発見に目を輝かせながら取り組んでおり、自然が子どもたちの知的好奇心や感性を豊かに育てる場になっているのだと実感しました。

地域の皆さんが日々の定例活動を通してこんぶくろ池自然博物公園の豊かな自然を守ってくださっているからこそ、このように多様な生きものと出会える環境が保たれていると思います。そして、定例活動だけでなく、この観察会のように子どもたちが自然と触れ合う機会を定期的に設けていることが、子どもと自然の良い関係を育む大切なきっかけになっていると感じました。

今回のクモの観察会では、クモの種類や生態について多くの知識を得ることができただけでなく、自然と人、特に子どもたちとの関わりのあり方についても考えるきっかけになりました。こんぶくろ池自然博物公園の豊かな自然を、地域の方々の手で次の世代に引き継いでいくことの重要性を改めて感じ、今後もこのような活動に積極的に関わっていきたいと考えます。



ナガコガネグモ 雌
巣に「隠れ帯」が見える

千葉大学理学部生物学科1年 中山 あかり

こんぶくろ池自然博物公園のNPOの活動に参加させていただいている、千葉大学理学部の中山あかりです。10月はクモ観察会に参加させていただき、多くの気づきがありました。

クモ観察会では多くの種が観測でき、参加者の方々も楽しんで主体的に取り組まれており、とても良いイベントだと思いました。私は都内に住んでいて首都圏では生態系が豊かな場所は限られることを日頃から感じていたため、こんぶくろ池自然博物公園の「人々が暮らす地域で生態系が築かれていること」がとても興味深く感じていました。



イオウイロハシリグモ
雌と子グモ達

そしてクモの観察会の（遠出して参加する自然体験とは異なり）「身近な場所での発見・観察」というところがとても意味のあるイベントだと思います。

日常ではあまり種が意識されないクモ目の生物ですが、観察会を経験する（探し方を知る）ことで新しい視点を得て日々の発見も増えるのではないかと思います。私はクモは幼体では種の判別が難しいということを知りました。このような取り組みが地域で暮らす方々の環境への意識を構築していくのでしょう。

多くの種が見られた観察会でしたが今回は昨年と比べ観察できた種数や個体数が少なかったようで、気候変動の影響があるかもしれないとのことでした。元々地球に気候変動が存在しますが、現在は変化が急激に起こっていることが問題視されており第六の大量絶滅とも言われています。生物には人にとって危険なものもたくさんいますが、それぞれ生態系を支える重要な存在で、絶滅して良いものはいないということに参加者の方も感じることができていたら良いなと思いました。

今回は先生をお呼びしてルートをとどるという構成でしたが、道を進む都合上どうしても列は細長くなりやすく、先生の解説を聞くことができない人がいると感じました。講師の方を増やしたり、スピーカーを使ったりして参加者全員が解説を聞けると良いのかもしれないと思いました。



こんぶくろ池自然博物公園 クモ観察記録20251005

		種数
アシナガグモ科	オオシロカネグモ	1
	キララシロカネグモ	1
	コシロカネグモ	1
ウズグモ科	カタハリウズグモ	1
	マネキグモ	1
エビグモ科	アサヒエビグモ	1
	キハダエビグモ	1
カニグモ科	ヤミイロカニグモsp.	1
	ワカバグモ	1
キシダグモ科	イオウイロハシリグモ	1
コガネグモ科	オニグモsp.	1
	コガタコガネグモ	1
	ナガコガネグモ	1
	ゴミグモ	1
	シロスジショウジョウグモ	1
	ジョロウグモ	1
コモリグモ科	ウツキコモリグモ	1
	ハラクロコモリグモ	1
	コモリグモsp.	2
ジグモ科	ジグモ	1
シボグモ科	シボグモ	1
タナグモ科	コクサグモ	1
ハエトリグモ科	マミジロハエトリ	1
	オオハエトリ	1
	シラヒゲハエトリ	1
	チャイロアサヒハエトリ	1
	アオオビハエトリ	1
ヒメグモ科	シロカネイソウロウグモ	1
	ヒメグモsp.	2
	オオヒメグモ	1
フクログモ科	フクログモsp.	1
ワシグモ科	メキリグモ	1
	ワシグモsp.	1
合計		35

環境評価（浅間茂）

クモ1種類につき1点。次のクモはボーナス点がつく。

5点：コガネグモ

3点：トリノフンダマシ類

- A (36点以上) 林・草地・水辺があり、良い自然環境を保っている。自然公園。
 B (26～35点) 水辺など湿地があり、環境に多様性が見られる。多様性のある公園。
 C (16～25点) 建物の隙間に樹木が見られ、草が生えている。都市の中の公園。
 D (8～15点) 市街地であるが、地面はコンクリートだけでなく、草が生えている。
 E (0～7点) 植物の生えている面積が少なく、建物に依存するクモが生息している。

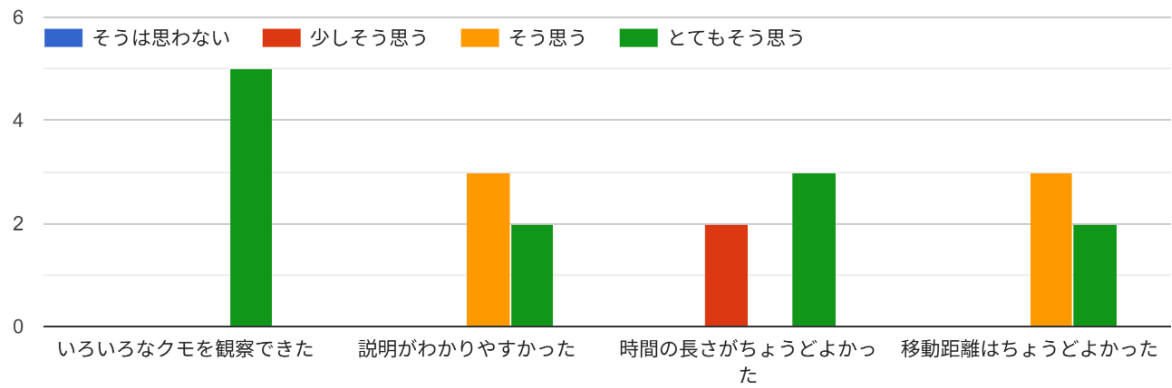
こんぶくろ池自然博物公園 クモの観察記録

	2010/10/14 15:30-16:30 浅間茂氏	2017/9/10 クモの観察会	2024/6/15 10:00-12:00 クモの観察会	2025/10/5 10:00-12:00 クモの観察会
環境評価	A(41)	?	A(37)	B(35)
種数	37	?	37	35

アンケート結果

クモの観察会に参加した感想をお伝えください。	特に印象に残った点があれば教えてください	クモの観察会を含めて、当園へのご要望などがあれば教えてください
くもについて初めて知ることばかりで沢山の発見がありました。子どもも、「見つける」という工程がとても楽しかったようです。もし今後可能だったら、未就学児と小学生で分けて開催していただけると、最後まで集中力を保ったまま、より楽しめるかなと思いました。	生態系のはなしや、観察したら逃がしてあげ、命を大切にするということを示していたところ。	蛾や蝶の観察会も開催していただけたら嬉しいです。
こどもが一生懸命クモ探しをしていて楽しそうだったので、またイベントの機会があれば参加させていただきたいと思います		
子どもたちがとても楽しんでいて。親も夢中になって探してしまった。面白かった。	みんなで捕まえに行って、一匹ずつケースに入れて観察したこと	昆虫の観察会、標本づくり講座など昆虫関係のイベントをして欲しいです。。
大変勉強になりました！	クモに意識的に目を向けると、こんなにもたくさん種類が集まるのだと感動いたしました。	
娘が自然に興味を持ってくれて、非常に良い機会だと思っている。	柏の葉に住んでいるのだが、身近にこんな自然が残された山林がある事に驚きました。	引き続き色々と自然と触れ合える機会を設けてもらえると、ありがたいです。

クモの観察会はいかがでしたか？



3月2日（日）こんぶくろ池保全活動報告会から ナラ枯れの被害木調査と落葉広葉樹の育成 その1

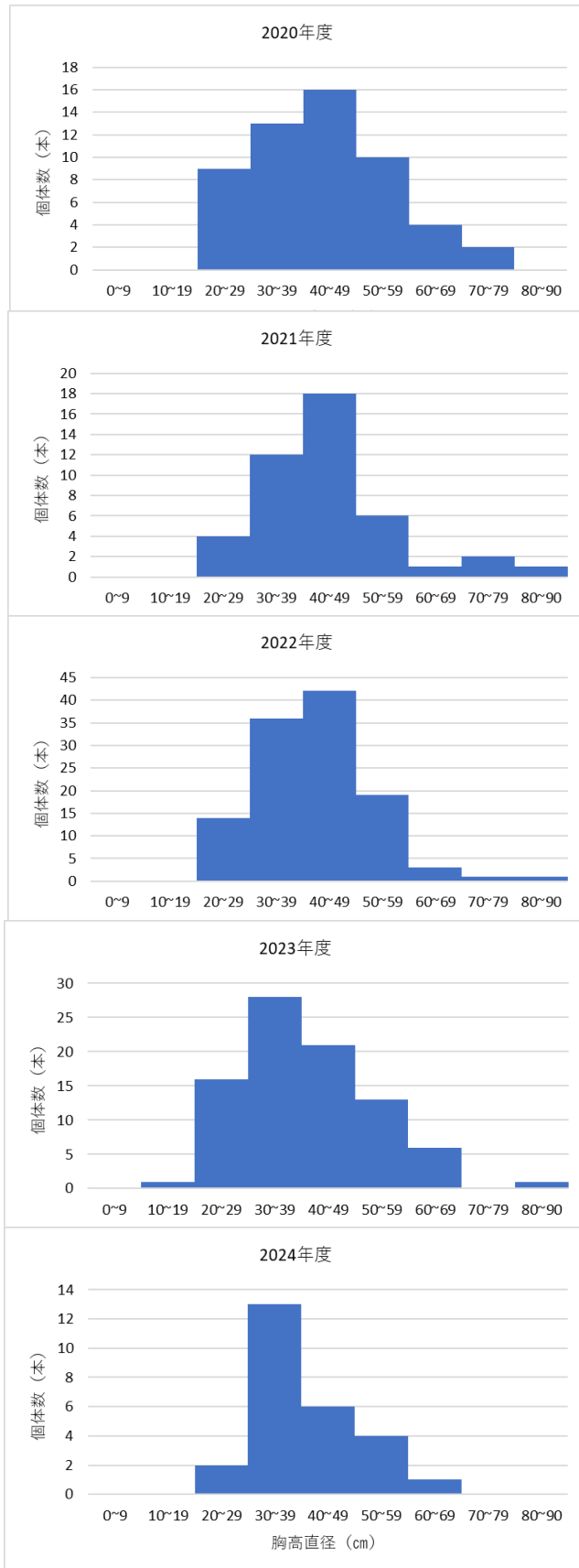


図2 胸高直径と被害木数

はじめに 2020年8月に園内で初めてナラ枯れの被害が認められ、2020年度55本、2021年度43本、2022年度113本、2023年度79本の被害木を確認した。それらは柏市により伐採、あるいは幹にネットを巻きカシノナガキクイムシの脱出を防止する等の対策がとられた。本調査は、今後の対応策検討の材料提示を目的に、今年度に入って新たにカシノナガキクイムシの被害にあったと考えられる木、園路公道への落枝倒木が懸念される過年度被害木、また園路近くで倒れた過年度被害木を記録し、柏市に報告した（Ⅰ）。

また地域を限定し過年度被害木の生存枯死調査を行った（Ⅱ）。

伐採跡地の藪化防止と森の若返りを目的に2020年から落葉広葉樹の育成を開始している（Ⅲ次号に掲載予定）。

Ⅰ 2024年度ナラ枯れ被害木調査

方法 樹幹下部を中心に穿入孔がある木を新規被害木とし、以下の項目について調査し記録した。

- ・ 樹種 ・ 幹周囲長（胸高直径）
- ・ 粉フラスの有無およびフラス量の多少
- ・ 2mより上に穿入口があるか
- ・ 樹液の分泌の有無
- ・ 園路に近い木の抽出
- ・ 葉枯れの状況（葉枯れがある場合は、およそ何割の葉が枯れているかを記載）
- ・ 被害木の位置
- ・ 写真記録（別途保存）

実施日 定例活動日 8/18(11名) 8/25(5名) 9/15(8名)
有志活動 8/18 午後(2名) 8/24(2名) 9/2(2名)

調査範囲 北部地区で侵入できる範囲を調査した（図1）

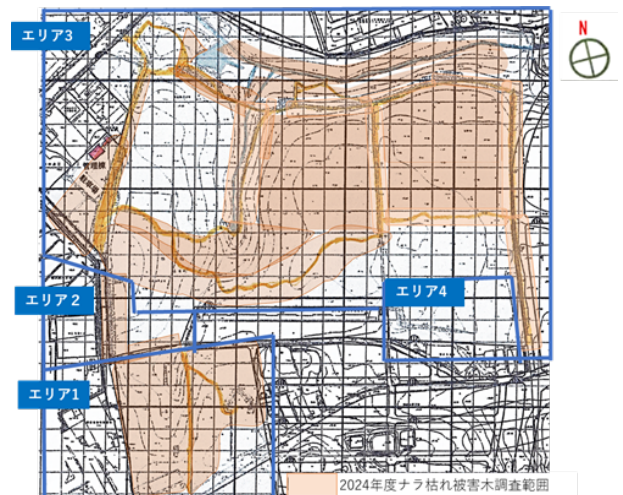


図1 2024年度調査範囲

結果

- ① 9/15 までに確認した 2024 年度新規被害木合計は 26 本。調査結果は柏市に報告した。このうち 2 本は 9/2 以降に穿入を受けたと推測される。
- ② 2020 年度～2022 年度まで被害木胸高直径のピークが 40~49cm だったが、2023 年度から 30~39cm の若齢木へとシフトした（図 2）。
- ③ 2020 年度の園内初記録以降、被害木の本数は 2022 年が最も多かったが、その後、減少傾向にある。（図 3）
- ④ 園路や公道への落枝、倒木が懸念される過年度被害木が増加している。2023 年度は 3 本を報告したが、本年は 11 本を確認し報告した。また、過年度ナラ枯れ被害木のうち、園路近くにある倒木 2 本を確認し報告した。これらは、倒木下部ヘスズメバチ等の営巣が懸念される。

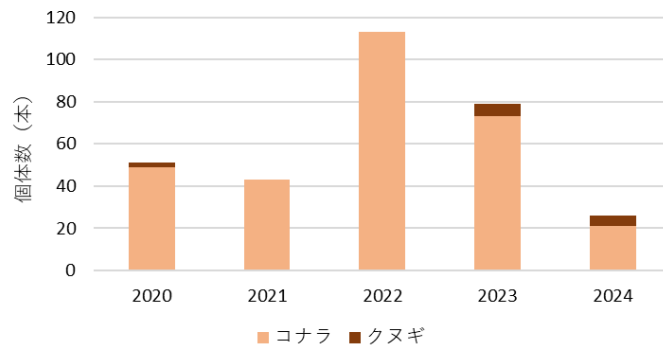


図 3：被害木数の変化

II 過年度被害木の生存、枯死調査

方法 調査区域を南 2 地区に限定し、区域内の被害木 58 本のうち、確認できた 57 本の生死を確認した。

調査区域 がんセンターに隣接し園路で囲まれた区域（南 2 地区）約 1,200 m²（図 4）

調査期間 10/5 10/12 10/13

結果

- ① 過年度および今年度被害木の位置を、枯死木、生存木、伐採済みに色分けして図 5 に示す。
- ② 2023 年度及び 2024 年度の調査結果を図 6 に示す。2023 年度は生存していたが、2024 年度に枯死を確認した被害木は計 7 本。2020 年度、2021 年度の被害木に生死の変化はないが、2022 年度以降の被害木で新たな枯死が生じた（表 1）。



図 4 調査区域

年度	本数
2020（令和 2）	0
2021（令和 3）	0
2022（令和 4）	4
2023（令和 5）	3

表 1 2023 年度は生存し 2024 年に枯死した被害木



図5 ナラ枯れ被害木生死の状況(南2地区)

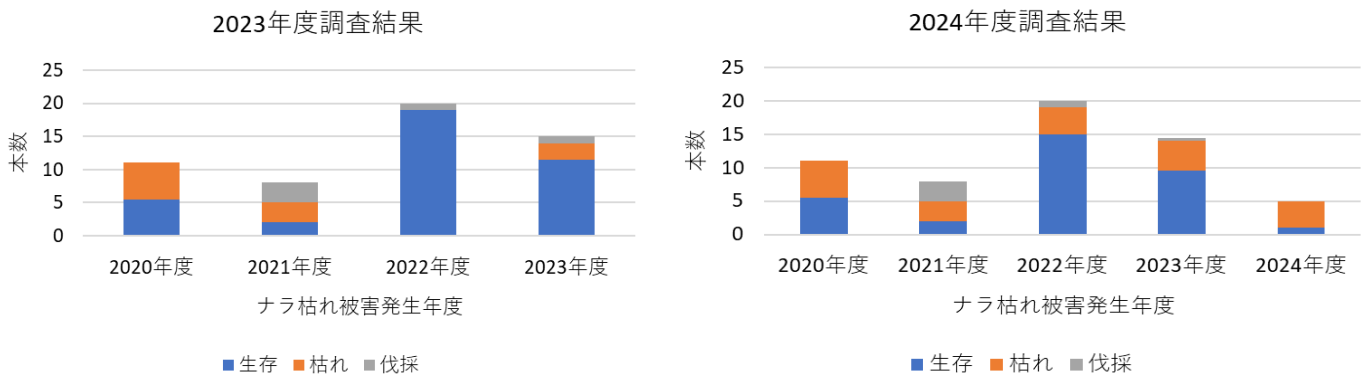


図6 ナラ枯れ発生年度と生存、枯死の本数

上田 真佐江 (文責)